
ARMORED-COREfor-answer-リンクスの足跡

マケレン

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ARMORED-CORE for answer リンクスの足跡

【Nコード】

N7226U

【作者名】

マケレン

【あらすじ】

国家解体戦争から数十年（ry

これは、一匹の、美しく野蛮な山猫の足跡をたどった物語

エピソード1（前書き）

アーマード・コアフォーアンサーの二次創作です

如何せん描写力、ていうか文才が足りません

オリ主がです

ふざけんなって方は申し訳ありません、ご観覧をお控えください

エピソード1

空には揺りかごが飛び、大地には愚鈍な獣が這い、空気は汚れきっている

なお山猫は地を駆ける

その力を誇示し、己に刃向かう者に牙をむけ、生き残る…

首輪を付けられ、牙を抜かれた山猫が居る中、常に自らを意識し続けた男の話

カロードランク31

unknown—ストレイド

支援企業無し—独立用兵

ラインアーク襲撃

「ミッション開始、ラインアー

クの防衛部隊を全て排除する」前クイック、敵の頭上を通り過ぎる、クイックターン、敵の背後をとった

「企業のネクストだど？」

脆弱なMTの装甲に至近距離でヒットマンを乱射、まとめて片づける

「こんな時に限って！」

全機撃破、再度クイックターン、敵のロケットとライフル弾視認、

サイドクイック、回避、ブレード起動、二機撃破、バッククイック、EN70%、ヒットマン乱射、全機撃破

「目標、残り約半数」

「くそ、きいているのか」

トンネルの入り口と出口に部隊を確認、背部プラズマキャノン起動、上昇、敵ライフル起動確認、サイドブースト

「プライマルアーマーだ!」

プラズマキャノン発射、2機撃破、前方クイックブースト、ブレード展開、入り口部隊撃破、即座にバックブースト
目の前を弾丸が通り過ぎる、被弾無し

「まずはプライマルアーマーを減衰させるんだ!」

当たるものか、ブーストカット、EN80%までの回復を確認

上に回り込み、下降にあわせてヒットマン起動、敵の頭上から乱射、全機撃破

「目標、残りわずかだ」

「通常兵器では太刀打ちできん」

「ノーマルはまだなのか、ノーマルは!」

プラズマキャノン起動、ノーマルロック、発射、撃破確認、サイド

クイック、敵バズーカ回避、ブレード起動、OB起動の振りかけ揺さぶりをかける、敵が合わせて背後を無効とする
—もらった

OBカット、メインクイック、ブレード、ヒットマン、第一陣ノーマル撃破、第二陣へ向かう、後は似たような物だった

「全目標の排除を確認、ミッション完了だ」

被弾無し、ヒットマン総消費数103発、プラズマキャノン二発

「よくやったな、ほぼ完璧だ」

「とはいえ、あまり調子づくなよ、敵が弱すぎたのだからな」
この程度で調子に乗るほど、ポジティブではない

戦闘起動を解除、OB起動、敵攻撃圏内から離脱するまでミッションは成功ではない

超音速で、ストレイドはラインアークを離れた

「戦闘ログだ」

ブリーフィングルームで九枚ほどの書類を手渡された

「目を通しておけ、後、ほれ」

それと同時に、今回のミッションにおける報酬が振り込まれたことを証明する用紙が渡された
人を殺めて、金を得る

自室に戻り、ログに目を通す
無駄な動きが多く見えた、まだだ、まだ早く終わらせることはできる、敵弾の回避行動にロスが多すぎる、次回はさらに無駄を省く
もっと強く、もっと強く

「艦長！第八艦隊最北の駆逐艦【ウィリアム】より通信！VOBを使用したネクストがこちらに向かっております！」

「詳細を確認しろ！」

ギガベース全体が慌ただしくなる、ネクストの襲撃、笑い事ではない、！VOBを使用したネクストであれば物の一分足らずで肉薄されてしまう、そうなる前に：

「主砲担当員に通達！敵ネクストに対し、射程距離に入り次第ロングレンジキャノンによる攻撃を開始！各武装担当員は襲撃に備えろ！」

「艦長、敵データ照会とれました、カラードランク31、ストレイドです！アリーヤフレームに近接武装で固めています！」

「こてこてのインファイターか！」

相性が悪い、素直にそう思った

送られてきた荒い画像からでもわかる、敵機体のレーザーブレードあんな物で数回斬りつけられたらギガベース全体が一瞬でナマス切りにされる、なんとしても接敵前に撃破しなければ絶望的だ

「距離、三キロをきりました！、まもなく接敵します！」

ギガベースの望遠カメラが遙か上空のストレイドを捉えた
ただの一度の被弾もなく、下方のギガベースに、正確にはその周りの輸送艦に目標を定めたようだ

「主砲担当員、直ちにほか機銃及びミサイル担当員の補佐に回れ！
少しでも時間を稼げ！非戦闘員は脱出に移れ！」

輸送艦を破壊し終わった黒いアリーヤが、赤い複眼をカメラに向けてた…そして瞬く間に距離を詰め、ブレードを展開した

「化け物が…」

艦長の意識はそこで途絶えた

ミッションーギガベース撃破
依頼主ーインテリオルユニオン

戦闘ログに、目を通す

思わず感嘆した、二回目の出撃でこの結果

ギガベースを無視し輸送艦を破壊して回り余裕綽々でミッション完

了、被弾無し

特別報酬もあり、整備設備、居住空間、ネクストを買ってスカスカになった財源も潤ってきた

「ここからが、本番だな」

企業の連中はこの有能さに目を付けただろう、これからはミッシェンが増える

ネクスト戦も避けられないだろう、奴にはいい経験だ

セレン・ヘイズは携帯端末を手にとった

「ちくしょう…」

ネクスト・セレブリティ・アッシュの搭乗者、ダン・モロは、カード本部のカフェの一席に座り込み大きなため息と今日何度めかの愚痴をはいた

「意味がわからねえ…何で攻撃がすり抜けるんだよ…」

今さっき行われた、わずか三十秒ほどで終わったランクマッチをダンは想起する

開始直後、凄まじい機動力で眼前に迫るアリーヤ

慌ててライフルを掃射するも、サイドメインの連続クイックブーストの起動のせいですり抜けたような錯覚をダンは覚えた

後ろに回り込まれ慌てて旋回するも時すでに遅し、強力なダガータイプのブレード、ドラゴンスレイヤーにより、瞬く間に撃破された

「はぁ…向いてねえのかな、俺」

「ああ、貴様には向いていないよ」

「つつなんだ…と…」

思考の渦にはまり、落ち込んだダンに追い打ちを駆ける台詞
いらついたダンは立ち上がり相手を見据えるが、その相手の強力な
眼力にその勢いも萎えてしまった

「全く、せっかくネクスト戦を味合わせてやろうと思ったのに、こ
んな奴が相手じゃろくな意味がない」

「ヘイズ…失礼…」

ダンはいろいろと泣きそうになった
何で初対面の女にいろいろボロクソにけなされなきゃならんのだ、
静かにフォローする隣の男の優しさによけい情けなくなり…そこで
ダンは、その二人組は誰か、という、いや、おそらくそうであろう
相手等に問うた

「あんたらは…」

「…ストレイドの…リンクス…ダン・モロさん、始めましては」

まるで女のような綺麗な男の差し出す、女のような綺麗な手
ダンはなんだかどぎまぎしながらその手を汗ばんだ手でゆっくり握
った

「あ、ああ…もう知ってるようだが、俺はダン・モロだ…し、しか
し意外だな、あんなバカ強いアリーヤのパイロットなんだし、もっ

と偉そうな奴かと…」

なんかいきなり失礼なこと言っちゃった、と、慌ててダンは口をつぐんだが、ストレイドのリンクスは苦笑いした

「事情があって、乗ってるんです…」

「へ…?」

「おい、時間の無駄だ、かえるぞ」

「はい、今行きますヘイズさん、ダンさん、またお会いしましょう、失礼します」

慌ててストレイドのリンクスはおっかねえ女…ヘイズの後を追いかけていく

ダンは、強さと態度がかみ合わないストレイドのリンクスの後ろ姿を、しばらく眺めていた

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7226u/>

ARMORED-COREfor-answer-リンクスの足跡

2011年10月9日09時43分発行